

小型発電機2800W GE-2800SS-IV使用法

発電機の始動運転

1

燃料給油キャップつまみを“OFF⇒ON”の位置に合わせます。



2

キースイッチを“START”の位置まで回し、エンジンが始動すれば放します。



※キースイッチを5秒以上回すとセルモーターによる電力消費が多いためバッテリー上がり
の原因となります。
しばらくおいてから再始動してください。

始動しない場合はリコイルスターターにて始動してください。

3

チョークレバーを手前に引きます。

エンジンが暖まっているときは不要です。



4

始動グリップを水平に勢いよく引っ張る。

(※斜めに引っ張ると切断する恐れがあります。)

グリップはゆっくり戻します。

(※始動グリップを引っ張った状態から急に離さないで下さい。)



5

エンジンが始動します。出力灯（緑色）が点灯します。



6

引いていたチョークレバーを押します。

交流の場合

7

交流電源取出しにはコンセントを差し込み、器具の電源を入れます。複数の負荷（機器）がある場合は、発電機への負荷を軽減するためひとつずつ接続または起動（電源入）させて下さい。



※過負荷警告灯（赤色）は以下の場合に点灯します。

- ・接続機器の負荷容量が定格出力を超過

直流の場合

7-2

直流電源の取出しにはチャージコードをコンセントに接続します。直流電源取り出しの場合は右側直流プロテクター（黄色部ノブ）が押されているか予め確認しておきます。

チャージコードは以下の順に接続します。

- (1)発電機本体コンセント⇒
- (2)バッテリー +端子⇒
- (3)バッテリー -端子



※直流プロテクターは12Vバッテリー充電中に定格以上の電流が流れると自動的に“OFF（切）”となります。再度充電する場合

- ・オーバーヒート
- ・交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力

※コンプレッサーや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用したとき、警告灯（赤色）が数秒間点灯する場合がありますが、故障ではありません。

8

交流電源はおおむね以下の範囲の電気器具が使用できます。

- ・汎用モーター類、照明（メタルハライドランプ、水銀灯）,840W程度まで
- ・精密機器（電子制御機器、パソコン、電子計算機、マイコン付機器、充電器）900Wまで
- ・電動工具類,2240W程度まで
- ・照明（白熱灯、ハロゲン灯）、電熱器、ラジオ、2,800Wまで

※電気工具類・汎用モーター類の一部は上記数値範囲内であっても起動電流が大きく使用できないものもあります。

電気器具の合計負荷が発電機の取出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないで下さい。発電機損傷の原因となります。

精密機器等で使用の際は発電機のエンジンノイズの影響を受けない距離を確保してください。

9

エコノミースイッチを“ON”にすれば負荷に応じた経済的な運転ができます。（交流のみ）



※コンプレッサー,投光器など電気負荷が大きい場合はエコノミースイッチを“OFF”の状態で使用します。

※直流電源はエコノミースイッチを“OFF”の状態で使用します。

はノブを押込んで“ON（入）”にしてください。直流プロテクターが“OFF（切）”となる場合はバッテリー容量・放電状態を発電機指定容量内に減らしてください。

8-2

直流電源は40AH以下、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリーが充電できます。40AHのバッテリーの場合1/2状態から約5時間でほぼ良好な状態となります。

バッテリー充電中ニ「バッテリーから電気を取ったり、バッテリー充電中に車のスターターモーターを回さないでください。

密閉式バッテリーには接続しないで下さい。

（専用のバッテリーが必要です。）

発電機の停止・燃料補給・輸送

1

交流電源の場合器具の電源を切り、本機からコンセントを抜きます。

2

エンジンスイッチを“ON⇒OFF”に合わせます。



3

燃料給油キャップを開け内側オレンジ色目印まで給油します。



内部のフィルター（白い網）を外さないで下さい。

給油時に異物の混入や燃料タンクの錆が給油時に混入すると本機の故障の原因になります。

4

輸送時はストッパーレバーを動かしキャスターをロックします。

1-2

直流電源の場合チャージコードを以下の順に取外します。接続とは逆の順序です。

- (1) バッテリー - 端子⇒
- (2) バッテリー + 端子⇒
- (3) 発電機本体コンセント

